

「金融コングロマリットにおけるリスク集中の認識と管理に関する業態横断的な調査結果」の概要

本報告書は、リスクの統合と合算に関してジョイント・フォーラムが過去に行なった取組みを基に作成されており、グループ内の企業における、またそれらが直面する主要リスクに関する横断的なリスク集中の認識・測定・管理において、金融コングロマリットがどのような進展を遂げたかについてまとめている。

1999年12月に、ジョイント・フォーラムは「リスクの集中に関する諸原則」(原題：*Risk Concentrations Principles*)と題するペーパーを公表し、金融コングロマリットのリスク集中の健全な管理および統制を規制・監督プロセスを通して確保するための原則を金融監督当局に対し示した。2001年11月にジョイント・フォーラムは、「銀行・証券・保険のリスク管理の実務と自己資本規制に関する比較」(原題：*Risk Management Practices and Regulatory Capital: Cross-Sectoral Comparison*)と題するペーパーを公表した。同ペーパーでは、将来どの程度進むかについては中立的な立場をとりつつも、リスク管理および自己資本に関する各業態のアプローチが収斂する傾向にあることを指摘している。ジョイント・フォーラムが2003年8月に公表した「銀行、証券会社、保険会社における統合リスク管理の動向」(原題：*Trends in risk integration and aggregation*)では、(1)企業全体における総合的なリスク管理のさらなる重要性、そして(2)数学的リスクモデル活用によるリスク合算に関する取組みが重要な方向性として示された。しかしながら、2003年のペーパーでは、リスク管理にかかる重要な意思決定が実務面でどの程度中央集権化されているかは、企業によってかなりの程度異なること、また、リスクの合算手法は未だ初期の発展段階にあることが指摘された。

本ペーパーでは、これまで公表してきた報告書を発展させ、銀行・証券・保険のうち二分野以上に従事する金融コングロマリットが、現在、企業レベルにおけるリスク集中をどの程度認識・管理しているか、また、潜在的なリスク集中を認識するため、ストレステストやシナリオ分析を含めて既に広く用いられているリスク分析手法や発展途上の技術をどのように用いているか、について考察している。

本ペーパーを作成するために行なった作業の大部分は、2007 年後半の市場混乱以前に行なわれたものである。市場混乱については 13 頁および 32 頁のボックス内で記述しているが、本ペーパーが対象としているのはより一般的なリスク集中の管理である。

大多数の金融コングロマリットは未だ、主としてリスクカテゴリー毎、および業務ライン毎にリスク集中を認識・管理している。例えば、信用リスク管理は銀行業務部門単位で、また、災害リスクの集中は保険業務部門単位で取り扱われている。我々はこうした管理を「部門型（サイロ）・マネージメント」と呼んでいる。

以上に加え、本ペーパーでは次の 2 つの考察を述べている。第一に、流動性リスクの管理は、（おそらく他のリスクとは測定手法が異なるため）他のリスクカテゴリーと比較し、横断的なリスク分析の枠組みに統合されている度合いが低い。第二に、保険業を主とする金融コングロマリットは、統合された横断的リスクシナリオ分析の経験が豊富なようである。これは、保険業務に伴うリスク（特に損害および傷害保険の分野におけるリスク）の性質がリニア分析（直線的なリスクの変化を前提とした分析）には馴染みにくいためであろう。